

# 障がい者雇用で国際会議

## アクサ生命がホストを務める

アクサ生命は、7月1日に東京都港区のシエラトン都ホテル東京で開催された「2014年アジア太平洋ディサビリティーマターズ・カンファレンス&アワード」のホストを務めた。これは障がい者雇用がテーマの国際会議で、昨年度の同アワードで同社が従業員部門賞を受賞したことで日本での開催が実現し、ジャン・ルイ・ローラン・ジョシ社長兼CEOが講演した。また、タイのクルンタイアクサ生命保険が従業員部門賞を受賞したのをはじめ、日本企業を含む9社が従業員、職場、消費者の各部門賞の表彰を受け、パネルディスカッションやグループディスカッションなどを行った。

が能力を発揮できるタイバーシティ&インクルージョンの取り組みを推進してきた」と述べ、積極的な取り組みを紹介した。

従業員部門賞を受賞したクルンタイアクサ生命のデイビッド・コルニCEOは受賞企業代表としてパネルディスカッションに参加。「タイでの障がい者雇用はまだ遅れているが、当社の新契約が毎年伸展しているのは、積極的に障がい者を雇用することで会社全体の就業意識を向上できたから



パネルディスカッションでは各社の取り組みが紹介された

障がい者雇用は新たなステージに入ってきた。本日の参加企業の率先した取り組みを期待する」と語った。

07年に米国で発足した同会議は、欧州やアジア太平洋地域へと展開を拡大

だ。これからも取り組みを強化したい」と発言した。

また、厚生労働省職業安定雇用開発部障害者雇用対策課の川村徹宏主任障害者雇用専門官は「経済のグローバル化に伴い障がい者雇用に同様の視点は欠かせない。国によって制度は異なるが、課題や解決方法の情報を共有し改善していかねばならない。わが国の障



ローラン・ジョシ社長

同会議は、障がい者雇用などで先進的な取り組みを行っている民間企業を表彰し、具体的な事例を紹介しながら情報の共有

有を行うことを目的としている。ローラン・ジョシ社長は「この会議が日本で初めて開催されたことには素晴らしいメッセージでもある。日本では障がい者雇用がどまらず、社員一人一人

### ローラン・ジョシ社長講演

## 積極的な雇用を呼び掛け

し、今回の受賞はアジア太平洋地域の民間企業が対象となっている。主催は、職場やマーケットで障がい者との共生をグローバルに推進する専門コンサルティング会社のスプリンクボード・コンサルティング社（米国）で、当日は、国内外における障がい者雇用施策の優良先進民間企業の関係者約150人が参加した。